

# 保護素子のご使用上の注意事項

## △回路設計に当たって

- (1) 保護素子は、使用条件と定格性能を十分確認の上ご使用ください。
- (2) 保護素子は、定格電流、定格電圧以下でご使用ください。
- (3) 保護素子は、異常時に流れる電流（溶断電流）を定格電流の2.5倍以上になるよう設定してください。  
突入電流のある回路にご使用の場合、突入電流に対する耐力を十分確認してください。
- (4) 保護素子を、定格電圧を超える回路では使用しないでください。
- (5) 保護素子は、定格の選定が妥当であったかを最終製品の状態で通常使用状態及び予測できる異常に対し繰り返し試験をして選定の妥当性を確認してください。
- (6) 電源の1次側へは使用しないでください。

## △取付け・実装について

- (7) 保護素子の取付け時、本体の温度・加熱時間は、260 10秒間以下を守ってください。
- (8) 保護素子の本体に、はんだこてを触れないでください。
- (9) 一度実装された保護素子を取りはずして再使用しないでください。
- (10) はんだこてによる修正は、行わないでください。やむ得ず修正を行う場合、こて先温度300、端子への接触時間を3秒以下にしてください。

## △耐薬品性について

- (11) 保護素子は、イソプロピルアルコールに5分間（液温20～30）浸せきしても影響はありません。  
多価アルコール系有機溶剤（パインアルファ（TM）、テクノケア（TM）等）をご使用の際は当社にお問合せください。

## △超音波洗浄

- (12) 苛酷な超音波洗浄は端子の切断や電気特性に影響を与える場合があります。  
止むを得ずご使用になる場合は、事前に十分な評価を行ってください。

## △使用中の注意について

- (13) 通電時の保護素子には触れないでください、火傷をするおそれがあります。通電時には保護素子が高温になる場合があります。また、電源を切った後保護素子に触れる場合、保護素子の温度が下がっていることを確認してください。

- (14) 保護素子の溶断試験時には、保護眼鏡を付けてください。保護素子の溶断時に、本体が破裂して飛散場合があります。溶断試験時には眼球に対する保護をするほか、保護素子が飛散のを防止する覆いをしてください。

## △セットの使用環境について

- (15) 酸性やアルカリ性の雰囲気で使用しないでください。
- (16) 過度な振動や衝撃を加えないでください。
- (17) 爆発性、発火性の雰囲気では使用しないでください。

## △万一の場合について

- (18) セットの使用中、発火、発煙及び異臭が生じた場合、セットの電源を切るか又は電源コードをコンセントからぬいてください。

## △保護素子の保管について

- (19) 保護素子は、直射日光を避け、-10～+40の室内で保管してください。  
直射日光は、外装材やテーピング材の退色、変形が生じる場合があります。  
また、湿度が高い場合湿気の影響ではんだ付け性が著しく低下する場合があります。
- (20) 長期間にわたり保管した製品は、協議の上処置してください。  
長期間にわたる保管は、包装材料の劣化やテーピング材料の劣化が顕著です。長期間にわたり保管される場合は当社にお問合せください。
- (21) テーピング梱包品には外部より力を加えないでください。梱包材料の変形で自動装着に影響がでます。

## △製品の廃棄上の処置について

- (21) 廃棄の場合は産業廃棄物として処理してください。保護素子は各種の金属、樹脂で構成されています。

## △サンプル製品について

- (22) サンプルとしてお求めになった保護素子は、市販機器に使用しないでください。サンプルは、特定用途（形状見本、電気特性確認用等）に提供しております。